

「人の感動に、貪欲。」をコンセプトに、さまざまな企業のイベントプロデュースを行う Backbone 社のプロジェクトの裏側をお伝えする「BACKBONEDetails」。第4回目の今回は、Hグループの社会イノベーション事業を支える一員として、サステナビリティ経営を推進する HS 社の 10 周年イベントの裏側をお伝えする、全3本のインタビューシリーズの最終回です。

L 大野 亜紀 人事総務本部 総務部 庶務グループ 主任
R 田宮 義之 人事総務本部 総務部 管財グループ 主任



2021年11月に全世界同時中継イベントとして実施した当日の様子と、今後の周年イベントにかける想いを、同社の大野さんと田宮さんに振り返っていただきました。

「つながり」を表現したオンライン同時中継イベント

「つながり」をコンセプトに実施した今回の10周年イベントでは、事前に制作した映像を流すだけではなく、全国の各拠点やご自宅から参加されている方とメイン会場を中継でつなぎ、リアルタイムにコミュニケーションが生まれる演出をさせていただきました。

大野 今回実施いただいた中継でのコミュニケーションは、オンラインならではの良さが感じられるとても効果的な手段だったように感じています。会社から従業員への一方的なメッセージではなく、みんなが集まって参加している雰囲気も出すことができました。

田宮 映像だけに完結させない演出が効いていたと思います。弊社が国内で展開するグループ会社や拠点のうち、地域ごとに7拠点を紹介する「2万人がつながる」HSグループの「旅」では、それぞれ映像に登場した従業員が中継でも登場することで、コンテンツに深みが生まれていました。



大野 ほかにも私が印象的だったのは、イベント開始前に事務局の様子を映していたことでした。終了後、社内チャットツールで同僚から連絡をももらったのもうれしかったですね。おそらく出演者の方々も、周りから声をかけてもらえたんじゃないかなと思います。

冒頭に事務局のみなさんの姿を映すことで、イベントがつくり上げられている裏側の雰囲気をさせる演出の意図がありました。

田宮 エンドロールの映像でも、本番当日の事務局スタッフが働く姿を差し込んでいただき、短時間でそのような

演出をしていただいたことに感動しました。私の周囲でも反応がありましたし、事務局として携わっていた従業員たちの一生懸命さが伝わったんじゃないかと思います。

当日撮影したものをリアルタイムで編集し、エンドロールの映像として配信させていただきました。準備期間を含めた今回のプロジェクトを通じて、みなさんがかんりの時間と労力をかけて取り組まれていたのを存じ上げていたので、予定通り実施するのみでイベントを終えてしまうのではなく、イベントをつくり上げてきたみなさまの存在を讃えるような演出をめざしました。

イベントを通じ、会社をひとつにつなげる

コロナ禍の影響により、オンライン中継イベントとして実施させていただきました今回のプロジェクトでしたが、御社のように国内外に拠点を持つ大企業が、当時前例のなかったオンラインイベントの開催に踏み切られたことは、時代を象徴する出来事だったのではないかと感じています。今回振り返ってみていかがですか？

田宮 従業員からのアンケートでは、オンライン視聴だったので気軽に参加することができたという肯定的な意見がありました。リアルタイムで見られ



なかった方のためにアーカイブ配信ができたことも、オンラインならではの良さだったと思います。

従業員として誇りを持つことができたという声もありましたし、OBからは、若手従業員が活躍する姿を見て、会社の将来に希望が持てたという意見もいただきました。

大野 当日の現場終了後には、「大成功だったね」と事務局のスタッフ同士で話していました。コンテンツ制作といった準備に関しては、リアルでの開催よりも大変な場面もありましたが、こういった反響があったことで、実施した意義を実感できたと思います。

現在はコロナ禍も終息に向かっていますが、今後のイベントではオンラインを視野に検討されるのでしょうか？

大野 今後の方針については、まだ十分に描き切れていないのが正直なところですが、私自身、3周年イベントからこの業務に携わってきましたが、どの年もそれぞれの良さがあったと思います。弊社には、普段からオンラインイベントに馴染みのある世代と、リアルで楽しみたいという気持ちの強い世代のどちらも数多くいるので、うまく兼ね合いを見つけられるやり方を考えていきたいですね。

田宮 確かに、若手従業員を中心にオンラインへの賛成意見が集まる一方で、

リアルで集まりたいという思いが強い従業員がいるのも事実です。今後はハイブリッドを視野に方向性を探っていくのではないかと思っています。

今回実施したことで得られたオンラインのメリット/デメリットについての知見を踏まえ、弊社からも今後の周年イベントのあり方についてご提案できればと考えています。

大野 通常では各拠点からの参加者が限定されてしまう周年イベントでも、オンラインなら、誰もが参加可能な方たちで実施できるというメリットを感じる事ができました。

一方で、弊社は海外拠点も複数あるため、リアル会場に集まって実施した方が、グローバル企業としての実感が生まれるのではないかとも思います。定年前の最後の楽しみとして周年イベントを捉えている従業員もいるため、そういった方々にも喜びを感じてもらえる素敵なイベントにしていきたいですね。

田宮 オンラインとリアルそれぞれのいい部分を生かしながら、どのようにイベントをつくり上げていくのかが今後の課題に思います。私は今回はじめてイベントづくりの仕事に携わらせていただきましたが、Backbone社さんと一緒にさせていただくことで、イベントという場を通して会社をひとつにつなげるという、とても得難い経験

をさせていただきました。

イベントを実施する本来の意味は、会社の良さを従業員に伝えること、そして従業員に感謝の思いを伝えることだと感じています。今後どういった形式で実施していくのかを含め、Backbone社さんと一緒に良いイベントのあり方を考えていけたらと思います。

